

えんぱわ

「すべての人々に、力を。」

EMPOWER

Vol.60

2021年2月



特集

コロナ時代の

-2020年の支援活動から見えるもの-

国際協力について考えよう

国際協力について考えよう

2019年末に、中国で初めて検出された新型コロナウイルスによる感染症は、2020年に世界中で猛威を振るい、現在もその状況は続いています。2020年末には世界全体で、感染者と亡くなった人はそれぞれ、8000万人、180万人を超えています。また、経済をはじめ様々な方面に大きな打撃を与えていて、世界中の人々が大きな問題に直面しています。私たちエフアジャパン（以下、エフア）のような国際協力 NGO にとっては、各国の入国制限により、支援する現地に自由に行くことができないという事態が最大の問題です。ヨーロッパやアメリカ、ロシアや中国などで新型コロナウイルスに対するワクチンが開発され、接種が始まっている国もあるなど、希望を持つことができるニュースも報道されています。しかし未だ、今後の状況は不透明です。そのような「コロナ時代」とも言える今、これからの国際協力について、2020年に実施したエフアの活動から考えてみました。

Y カンボジア緊急支援募金

カンボジアでは2020年1月27日に、外国人1人が新型コロナウイルスに感染していることが判明、その後3月7日にカンボジア人の感染が初めて確認されました。感染者数は他国と比べて少ないものの、医療施設や衛生環境の不整備が心配されたため、政府は3月16日よりすべての教育機関を閉鎖しました。

エフアが支援する SCADP（※）が運営している幼稚園も閉鎖されました。幼稚園の月謝の一部は、運営する児童保護施設の運営費にも充てられており、その収入源を断たれた同団体からの SOS を受け、4月16日から「【緊急アピール】新型コロナウイルス緊急支援募金-カンボジア児童保護施設支援のお願い-」を皆様に呼びかけ、9月末までに250万円以上の募金をいただきました。皆様からの募金は SCADP の銀行口座に送金し、運営する児童保護施設の家賃やスタッフの給与など



●マスクを着けて勉強する SCADP の子どもたち

に使わせていただき、同施設で生活する子どもたちは、安心して暮らすことができます。

らの早めの対策が奏功していることも、その一つなのではないかと考えられます。

政府は世界、そして隣国などの感染状況から、国内での感染者が確認されていない2020年3月21日までにすべての教育機関を閉鎖しました。ラオス国内で初めて感染者が確認されたのは3月24日でした。さらに4月1日からは国内の封鎖を発表、ラオス国民は基本的に家からの外出ができなくなりました。2020年末までの感染者数は41人。亡くなった方は報告されていません。

エフアでは例年より多少の遅れはありましたが、現地スタッフのソパンと綿密な連絡をとりながら、ラオス国内の小学校図書館、図書室に



●本を手に笑顔のナーサオナン村小学校の児童
本を届けました。自治労広島県本部のご支援により新たに4つの小学校に図書室を開設し、自治労青森県本部、自治労新潟県本部、自治労三重県本部、自治労東海地区連絡協議会（自治労東海地連）の継続的なご支援で購入した本を寄贈することができました。

Y ラオスの図書室支援

エフアが支援する3国の中では、ラオスでの新型コロナウイルス感染者が最も少ない状況です。様々な要因が考えられますが、政府による当初か

Y 豪雨被害にメッセージ

一方、2020年7月上旬から、日本では九州地方を中心に豪雨による大きな被害が出ました。長年、支援を受けている日本の人たちが、今年もまた大きな自然災害を受けたというニュースを知っ

●お見舞いのメッセージを送ってくれた SCADP の子どもたち



たカンボジアの SCADP の児童保護施設で生活する子どもたちと、こちらも長い間、皆様に運営支援をいただいているラオスのビエンチャン

都立図書館を利用する子どもたちから、お見舞いのメッセージが届きました。

それぞれ手作りの横断幕を手に、「日本の皆様に襲った災害に、心からお見舞い申し上げます。私たちは、日本人たちのために祈っています。私たちは、日本人たちのために祈っています。と、心を込めたメッセージを送ってくれました。

Y 逢えないからこそ…

2020 年度に入ってから、エファの日本人スタッフは 1 度も支援地に行くことができていません。昨年後半より各国の入国規制が少しずつ緩和されてきましたが、今年に入り再び日本でも規制が強化されています。コロナ以前の状況には未だ遠く、日本からスタッフが支援地に行くことができるようになるまでには、もう少し時間がかかりそうです。

行って逢うことができない…。それならば、今だから使える手段を使おう。エファ事務局では、行けないという状況を前向きに捉え、各国の状況や支援に関する報告をなるべく現地から多く送ってもらい、ウェブサイトとフェイスブックで公開、ご報告しました。テキストによる報告に加え、動画で子どもたちの表情を記録してもらい、一緒に投稿し、多くの支援者の皆様に視聴していただきました。

それらの試みによって、実際に行くことができなくても、多くの皆様に支援地の子どもたちの空気を、感じてもらうことができたのではないかと考えています。

実際に支援地に行って、匂いや音などを含めた空気感を子どもたちと共有することが、エファがこれまで行ってきた国際協力における基本的な姿勢であることは言うまでもありません。しかし、今後も新型コロナウイルスと付き合っていくてはならないのであれば、現地スタッフや協力団体とより深い信頼関係を築き、現代だから利用できる手段を用いての支援が必要になると考えてい

○お詫びと訂正○

「えんばわ 59 号」の特集『本が子どもの未来を拓く』の記事内、P3 で、自治労広島県本部の委員長のお名前を間違えて記載してしまいました。「山崎幸治委員長」が正しいお名前です。山崎委員長、自治労広島県本部の皆様、ご関係者の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。お詫びして、訂正させていただきます。誠に申し訳ございませんでした。

(エファジャパン事務局)

ます。

Y 助け合い、学び合う

より深い信頼関係を築く。言葉では美しく、そして簡単な事のように聞こえます。しかし、そのために必要なことは何なのかを考えると、簡単な回答はないと思います。

ヒントになるのは、カンボジア、ラオスの子どもたちからもらった、豪雨の被害を受けた方々へのメッセージです。

「助け合うこと」が、今後はとても大切な関係になるのではないかと…。送られて来たメッセージの動画をパソコンの画面越しに見た時に、感じたことです。そして「学び合うこと」の大切さは、3 国の新型コロナウイルス感染症のデータを日々見続けていて、感じることです。経済の規模や人口、国土の広さや交通網など、各国の状況は違ってきます。しかし、世界的に見ても感染者の数が低く抑えられているエファが支援する 3 国からは、その対応に関して、私たちは学ぶことがあるのではないかと思います。

ワクチンや特效薬の開発などで、状況は良くなっていくと期待していますが、これからもしばらくは続くかもしれないコロナの時代。いや、コロナを克服し、その時代が終わっても、私たちは一方的な国際協力ではなく、お互いが「助け合い、学び合う」ことが新しい国際協力のめざしていくべき形の 1 つなのではないかと感じています。

手を出されたら、そっと自らの手を添える…。そんな深い信頼関係があるからこそできる「国際協力」が、これからは大切になってくるのではないのでしょうか。

答えは一つではないと思います。しかし、このような状況の今が、「国際協力」のこれからを考える時だと感じています。ご支援をいただいている皆様と一緒に、コロナ時代の国際協力について、これからも考えていきたいと思っています。

● ラオス

◆ タトーン村小学校とナーハンケー村小学校の子どもたちに本を届けました



●新しい本を熱心に読む、タトーン村小学校の児童

タトーン村は、首都ビエンチャンの中心部から約15キロの距離にあります。2010年に、自治労新潟県本部のご支援で、同村の小学校に図書館が建設されて10年。2020年も同県本部のご支援で、新学年度が始まる9月に、180冊の新しい本を届けました。タンタヴァン・ケオボンメーさん（小学校5年生）は、「私の学校には図書館があります！だから学校に行くのが楽しいです。物語の本を読んでいると幸せな気持ちになります。今年も本を届けてくれてありがとうございました」と笑顔で話してくれました。

また、ナーハンケー村のあるサワンナケート県は、首都から約530km南東に位置しています。同村は県の中心部からさらに約135キロ離れた高地にあります。同

村小学校の現在の校舎は、自治労東海地連のご支援により2015年に建設されました。新校舎建設時に図書室も開設され、同地連からはその後も継続的にご支援をいただいています。2020年も、児童向け図書174冊、本棚2組、そして図書室に必要な文房具一式の購入をご支援いただき10月に届けました。マー・ラー君（同4年生）は、「たくさんの新しい本が学校に届きました！新しい本を読むのが楽しみです。本は僕の勉強を助けてくれます。本をたくさん読むことで、僕は世界を知ることができます」と目を輝かせていました。

自治労新潟県本部ならびに自治労東海地連の皆様へ、心より感謝いたします。



●新しい本に夢中になるナーハンケー村小学校の児童

カンボジア

◆ SCADP の子どもたちに学校の制服や教科書、食品や常備薬などを寄贈しました



●制服や文房具を掲げる子どもたち

カンボジアで子どもの支援をする市民団体 SCADP は、エファと2007年から協働しています。同団体は、代表のイム・ソカリさんがインドシナ内戦終結前後から始めた支援活動を、現在も行っています。

2020年10月、同団体が首都プノンペンで運営する児童保護施設で生活する子どもたちへ、鹿児島県労働者福祉協議会（鹿児島県労福協）のご支援で、学校の制服や教科書、文房具などを届けました。

また、11月には自治労福岡県本部のご支援により、

食品や飲料水、キッチン用品、日用品、そして常備薬を寄贈しました。

同施設では、親に捨てられた子どもや両親と死別した子ども、また貧困、虐待などの理由で親と一緒に暮らせないなどの理由で保護された22名の子どもたちが共同で生活しています。段階的に再開されてきてはいますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、長期間、学校が閉鎖されていました。新型コロナウイルス感染症の影響を様々な場面で受けている子どもたちですが、寄贈された制服や食品などを手にすると満面の笑顔を見せてくれました。

鹿児島県労福協の皆様、自治労福岡県本部の皆様のご支援に心より感謝いたします。



●食品や常備薬の前に写真に収まる子どもたち



「支援者の皆様にも共に、 支援地の子どもたちのために歩いていただけたらと思います」

2020年10月に就任したエファの宮原監事。現在は小児がんの子どもたちのサポートを行うNPO法人の事務局長をしています。以前は、エファのスタッフとして活躍していました。監事就任にあたり、お話を伺いました。

Q. 以前、エファの職員だった当時の一番の思い出をお聞かせください。

A- 10年いましたので、一つを選ぶのは難しいです。支援地を訪問したこと（広報担当だったので2年に1度くらい）、イベント開催で多くの方に助けていただいたこと、エファボラデー、書き損じハガキ等のポスターのデザインを楽しみにしていたこと、事務局での喧々諤々…。振り返ると、国内も支援地も、本当にたくさんの方の想いと行動で成り立っている活動だということに改めて実感します。

Q. 監事に就任し、今後はどのようにエファと関わっていこうと考えていますか？

A- 私がいた10年の間も、エファの活動方針や事業内容は常に明確であった訳ではなく、事務局、理事会で何度も話し合い、支援者のご意見も伺い、その時々状況に対応しながら進化してきました。エファの活動を俯瞰しつつ、事務局職員としてそうした経緯を見てきた経験を、エファの今後の発展のために活かせるよう努力したいと思います。

Q. 最後に「えんぱわ」の読者とエファの支援者の皆様にもメッセージをお願いします。

A- 今私たちは、1年前には誰も想像していなかった世界を生きています。国内でも海外でも困難に直面する人々が増える中、団体の使命をどう果たしていくのかをよく考えなければならないのだらうと思います。支援者の皆様にも、事務局、理事会と共に、支援地の子どもたちのためにこれからも歩いていただけることを、心より願っております。

この一冊に
注目!

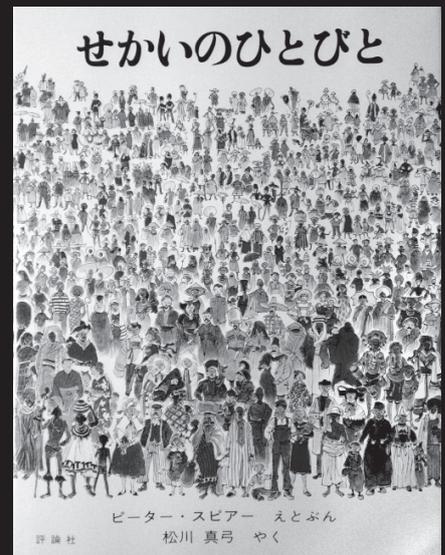
『せかいのひとびと』

「ほらね わたしたち みんながみんな それぞれ
こんなに ちがっているって すてきでしょ？」

日本では1982年に発行され、読み続けられている絵本です。世界的に著名なイラストレーター、ピーター・スピアーさんが、絵と文をかいています。最初のページをめくると、見開きの緑に覆われた景色の中に、「アダムとイブ」を連想させる男女が手を繋いでたたずんでいます。その後、今、地球上で生活する人々の様々な姿や生活様式、文化や習慣などが、丁寧な筆づかいで、細かく描かれているページが続きます。読み終わった後は、世界一周をしたような気分になります。また、CG（コンピューターグラフィック）や写真とは違う、優しい手描きの描写に、作者の温かいまなざしを感じます。

「分断」、「ヘイトスピーチ」、「自国中心主義」…。世界は先の大戦で多くの命を失い、反省していたはずなのに、それを忘れてしまったような流れが今また、生まれかけているように見えます。

「ちがっているからすてき」。この心が、このコロナの時代に最も必要な気持ちなのではないかと思えます。子どもから大人まで、そして、市井の人から政治家や権力者まで、ありとあらゆる人たちに、今、読んで、見て、感じていただきたい作品です。



ピーター・スピアー えとぶん
評論社 松川 真弓 やく

『せかいのひとびと』

ピーター・スピアー／えとぶん
松川 真弓／やく

発行日／1982年1月20日（初版）
発行所／株式会社 評論社

2021 新年のご挨拶



© Yoshifumi Kawabata

2021年が始まり一ヶ月が経ちました。少し遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。旧年中は、エファの取り組みを様々な形で支えていただき、ありがとうございました。本年もどうぞよろしく願いいたします。

2020年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界中の多くの人々が苦難の中に立たされました。エファがこれまで支援を行ってきたベトナム、ラオス、カンボジアでは、早期から厳格な行動制限を含む予防措置がとられた結果、日本ほどの感染拡大は抑えられました。しかし、現在も一進一退を繰り返しており、予断を許さない状況が続いています。子どもたちを取り巻く環境も厳しさを増しつつあります。学校を始めとする学び舎も長期間にわたって扉が閉ざされ、教育の機会に大きな爪痕を残しました。中でも、貧困下にある子どもたちにとっては、今まで以上に苦しく、希望を見出すことが難しい道のりが続いています。

エファも春先から活動国への訪問の停止を余儀なくされ、支援事業の継続に向けて手探りを続けた一年でした。ですがその一方で、私たちににとっては以下の3つのことについて考えた貴重な時ともなりました。

一つめは、私たちがいかにこれまで多くの方たちから支えられてきたか、ということです。自分のことを考えるだけで精一杯な中、寄せられた「困った時こそお互い様」というたくさんのメッセージ、そして温かな志は、心から私たちを勇気づけてくれました。

二つめは、事務局運営、事業実施の新たな在り方です。必然に迫られ導入していったオンライン・コミュニケーション、リモート・ワークは、今までにない効率性や効果をもたらしました。しかしそれ以上に大きな意義があったと思うのは、海外事務所スタッフや事業パートナー団体へ「信頼を託し、責任と権限の移譲」をすることにつながったことです。エファが本来目指すべき「自助と自立」に向けた考え方、基本姿勢について再認識する機会となりました。

三つめは、普段、中々考えることができなかった、エファのこれからについて踏み出せたことです。一昨年にエファは設立15周年を迎えましたが、今一度原点、初心に帰り、私たちのミッションである「すべての未来を担う子どもたちが、生きていく力を存分に発揮できる社会を実現する」ため、これから向き合っていくべき社会課題、支援事業の在り方、それらを実行可能にさせていく組織についての議論に火をつけることができました。

私たちは、2021年1月から「エファ改革2020～子どもたちが生きる力を十分に発揮できる社会をつくる団体になるために～」という、さらに力強い支援ができるようになるための組織改革のプロジェクトをスタートさせています。

組織として運営、経営方針を形作る理事会と、事業の形成、展開をしていく事務局との間で有機的な関係を築き、それぞれの立場と責任の下で、ミッション、ビジョンの実現に向けた新生エファを描き出していきます。プロジェクトの中で中期計画をしっかりと策定し、それに基づく事業と活動、組織の再編、財源確保の多角化を進めていき、団体が設立20周年を迎える2024年までには、その実践を通じてこれからの社会課題に寄与することができる、さらには社会価値を創造して変革をもたらすことができる組織として発展、成長してまいります。

誰もが苦しく辛かった昨年に、皆様から寄せられたエファ、そして子どもたちへの想いを拝見し、「危機こそが好機」、「未来を拓いていくことこそ、私たちに求められている役割」と思い、決意を新たに次の一步を踏み出していく所存です。

SDGsの「誰一人取り残すことない-No one will be left behind-社会」の実現のために、引き続き皆様のご支援、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人エファジャパン 事務局長
関 尚士

SDGs教室 - 特別編 ③ -

人と地球に
やさしい
SDGs

作画：
ヘッポコ絵描きyakko

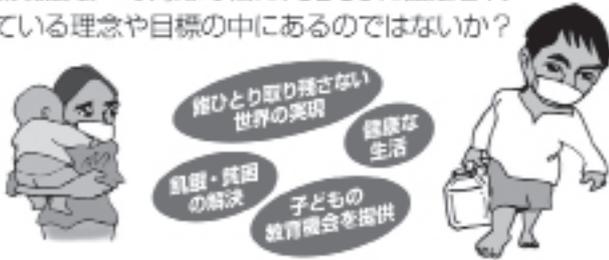


新型コロナウイルスが登場して1年。世界は小さなウィルスに右往左往させられてきた



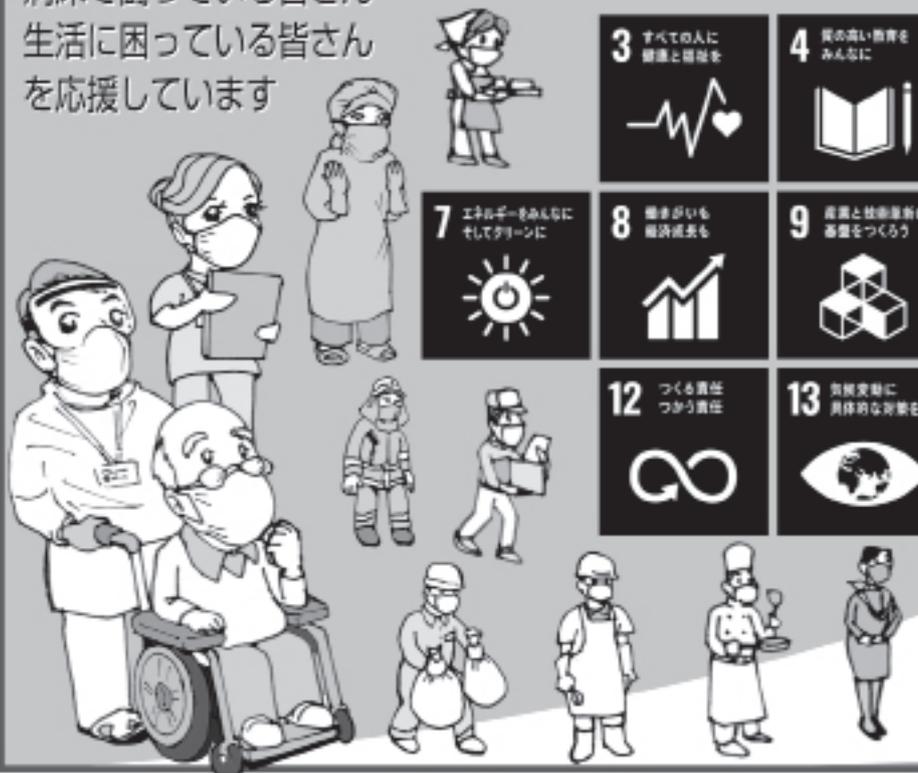
なぜ新型コロナウイルスが出現したのか？
無制限の森林伐採、野生生物の違法取引などが感染症の大流行を引き起こす可能性があることを世界中の科学者が以前から警告してきた

新型コロナウイルスを克服していくためのヒントは、環境破壊への対応の他に、SDGsに設定されている理念や目標の中にあるのではないかな？



これからどうなる？ワクチン、薬はできる？
海外旅行には行けるようになる？マスクなしで友だちと会えるようになる？誰にも先は見えない

エファジャパンは
持続可能な開発目標 (SDGs) を支持するとともに
コロナ禍の中を様々な現場で働く皆さんや
病床で闘っている皆さん
生活に困っている皆さん
を応援しています



- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 貧困をなくそう | 2 気候変動に具体的な対策を |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 4 質の高い教育をみんなに |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 6 安全な水とトイレを世界中に |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 8 働きがいも経済成長も |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 12 つくる責任 つかう責任 | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 14 海の豊かさを守ろう | 15 陸の豊かさも守ろう |
| 16 平和と公正をすべての人に | 17 パートナーシップで目標を達成しよう |

募集

2021年も「身近なことでできる国際協力」へのご協力をお願いします！



2021年も、「身近なことでできる国際協力」でのご支援をお願いします。2020年末、ご協力をお願いする新しいポスターが完成しました(左)。今年は「書き損じハガキ」、「古本募金」に加え、新たに「使用済み切手」のご案内もさせていただいております。仲間内や学校のサークルなどでご使用になる場合は、ポスターをお送りいたします。エファ事務局(電話：03-3263-0337)までご連絡ください。(数に限りがございます。)皆様のご協力をお待ちしています!!

「古本募金」

⇒ 0120-29-7000
までお問い合わせください。

「書き損じハガキ」

⇒ エファ事務局まで直接お送りください。

「使用済み切手」

⇒ 郵便物に貼られている切手の、周囲約1cm程を残して切り抜き、エファ事務局まで直接お送りください。

お知らせ

「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」の助成団体に選出されました

2020年末、エファは「パナソニック株式会社」が、世界的な社会課題である「貧困の解消」に向けて取り組むNPO/NGOを応援するプログラム「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」の「海外助成」の団体に選出されました。2021年の年明けから、同助成を受けて新生エファとなるための活動を開始しています。

プロジェクト名は、
「エファ改革 2020」～子どもたちが生きる力を十分に発揮できる社会をつくる団体になるために～
新型コロナウイルス感染症に世界が揺れた2020年。エファは支援地、そして世界の子どもたちの未来を明るく照らすことができるように、さらにパワーアップしたNGOに生まれ変わります！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



エファジャパンは認定NPO法人です

認定NPO法人であるエファジャパンへの会費(正会員を除く)、寄付、古本募金などの支援は税制優遇の対象となります。詳しくはエファジャパンHPをご覧ください。

今号の表紙

エファスタッフが2019年10月に赴いた、ベトナム北部、ハイフォン市の農村で撮影した写真です。お話を聞くためにお伺いしたダウン症の子どもたちの家を辞する際の光景です。子どもの手に母親がそっと手を添え、笑顔で見送ってくれました。この写真は、上でご紹介した、エファの2021年の「身近なことでできる国際協力」お願いのポスターでも使用しています。

えんぱわ エファジャパン広報誌 Vol.60
発行人・伊藤道雄 編集・エファジャパン事務局



特定非営利活動法人エファジャパン

〒102-0074
東京都千代田区九段南 3-2-2 九段宝生ビル 3F
TEL:03-3263-0337 FAX:03-3263-0338
E-Mail:info@efa-japan.org
URL:http://www.efa-japan.org